

「届けよう、服のチカラ」プロジェクト」 活動終了報告

11月末にて、「届けよう、服のチカラ」プロジェクト」の活動が終了しました。子どもたちの頑張り、そして保護者の方や地域の方のご協力のおかげで、Tシャツやトレーナーなどが1,201着、ズボンやスカートなどが610着、合計1,811着の服を集めることができました。ありがとうございました。

この活動は、国際理解教育の一環として行いました。始まりは6月に行った高山研修です。この研修で、『岐阜県にある高山になぜ多くの外国人観光客が訪れるのか』を調べるために、子どもたちは現地の方や、外国人観光客の方にインタビューをしました。



外国人にインタビューする様子

振り返りでは、「なぜ高山に外国人観光客がたくさん訪れるのか分かった。もっと外国について知りたい。」という意見が子どもたちから出ました。

その経験を踏まえて、服のチカラプロジェクトの活動を始めました。7月にユニクロの方に講演をして頂き、難民の人たちのことや服が難民の人たちに求められていることを知りました。そして9月には、カンボジアでビジネスを行われている池宮聖実さんに講演をして頂き、さらに世界の人々について知ることができました。

そして10月から服集めを開始しました。ただ服集めを行うのではなく、班ごとに役割を決め、全員が何らかの形で服集めに貢献できるようにしました。例えば、他学年に宣伝するためにポスターや標語を作る班や、保護者の方に服集めのことを知って頂くためのメール文章を作成する班などです。



服集めを呼びかけるポスターと標語



他学年に活動についての宣伝を行う様子

その結果、どんどん箱が服でいっぱいになり、追加の箱を何箱も教室に設置しました。11月末には、各クラスの福祉部員と福祉部班班長、ボランティアの生徒で一週間かけて集めた服の枚数を数え



集めた服の集計を行う様子

ました。結果は1,811着、段ボール13箱分の服を集めることができました。

活動を終えた生徒の感想を紹介します。

『私は学校に服を持ってきて、難民の方たちに届けることに協力したり、班の取り組みで他学年の人や保護者の方が服を持ってきたくなるように、俳句などを作ったりしました。ユニクロの方の講演や池宮さんの講演を聞いて難民の方の辛さを知ったので協力できて良かったです。』

『私は、弟や妹がいるので、服集めは協力できなかったけど、服集めの呼びかけの標語を作りました。ちょっとでも多くの服が集まればいいと思って心を込めてつくることができました。どんな言葉を使ったら伝わる標語になるのか考えなければならなかったのが難しかったけど、みんなで協力して標語を作ることができたので良かったです。』